

「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」の習得について

－英語圏話者と韓国語話者を比較して－(2)

(A Study on Acquisition of 「～te ageru」「～te kureru」「～te morau」 in the case of English Speakers and Korean Speakers.)

韓 先 熙

1. はじめに

「やりもらい」の補助動詞はそのもとなる動詞の動作がだれのために行われるかを現わすものである。また読者の意識が強く現れる言い方で、“話し手の視点”というものを常に問題にする。つまり話す相手や、話の中の人物・事件を、自分側の者(内の関係)か、そうでないか(外の関係)によって言葉を使い分けている。

本研究はこのような授受動詞の構文のうち、「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」をとりあげ、英語圏の学習者と韓国語を母語とする日本語学習者を対象に、視点表現としての理解がどの程度進んでいるのか、また構文の習得はできているのかを調査し、母語別に使用状況と誤用分布を調べたものである⁽¹⁾。

2. 調査の概要

調査はカナダにあるトロント大学の東アジア学部日本語学科に在学している学生(33名)と韓国のS大学の日本語日本文学科に在学している学生(71名)を対象にした。トロント大学に在学している学生は英語は使っているものの英語を母語とする学生と中国語など漢字を使用する言語を母語とする学生がまざっているので、アンケート調査を行うときそれぞれの母語を調べ、英語を母語とする学生を英語話者、中国語を使用する学生を中国語話者にかけて調べた。また学習歴を調べ、1年の学生と1年の授業を修了し、2年生に在学する学生を初級に、3年と4年に在学している学生を中級にわけた。韓国

の学生は1年生と2年生は日本語の学習時間が短いので対象からはずし、3年生と4年生だけを対象にした。3年生は3学期、4年生は5学期を修了した学生である。できるだけ日本語習得期間を合わせるため習得期間の違う他科からの学生は除外した。

調査は構文習得の状況を調べるために絵を提示し、指示に従い、文を完成するようにした。調査に用いた問題は『みんなの日本語』初級I本冊(スリーエーネットワーク、1998)の24課の練習問題を参考にし、10の問題を提示した。参考までにアンケートの資料をのせておく。わかりやすくするために資料の動詞は過去形に提示しておく。

*次の質問に答えてください。

①自分にとって一番強い言語(primary language)は何ですか。

②学習歴を書いてください。

EAS 120 ()

220 ()

320 ()

その他 (ex:Summer 1998)

()

*絵を見て「～てくれた」「～てあげた」「～もらった」の中から一つを選んで、例のように文を作ってください。

(例) (写真を見せる)



見せる人:スミスさん

(答え) 私は スミスさんに

写真を見せてもらった。

1)(コピーを予伝う)



予伝う人:山田さん

山田さんはトムさんに

2)(日本語を教える)



教える人:小林先生

私は小林先生に

3)(電話番号を教える)



カリナさんは私に

4)(本を貸す)



トムさんは佐藤さんに

5)(絵をかく)



絵をかいた人: ワットさん

スミスさんはワットさんに

6)(京都を案内する)



案内する人: 木村さん

木村さんはスミスさんに

7)(切手を見せる)



見せる人: ワンさん

ワンさんは私に

8)(傘を貸す)



貸す人: 佐藤さん

佐藤さんは私の弟に

9)(料理をつくる)



つくる人: 松本さん

スミスさんは松本さんに

10)(田中さんを紹介する)



紹介する人: タワボンさん

トムさんはタワボンさんに

3. 調査結果及び考察

3.1 全体の日本語のレベル別、母語別の正答率

まず全体の日本語のレベル別の正答率をしてみる。

それぞれ(英・初)は(英語話者初級)、(英・中)は(英語話者中級)、(漢・初)は(中国語話者初級)、(漢・中)は(中国語話者中級)、(韓・3)は(韓国語話者3年生)、(韓・4)は(韓国語話者4年生)の略である。

母語別に分けて全体のレベル別の平均正答率を「表1」に示す。

(表1) レベル別・母語別の平均正答率(%)

グループ	英・初	英・中	漢・初	漢・中	韓・3	韓・4	計
正答率	65.0	80.0	75.0	80.0	65.0	81.1	74.4

もっとも高い正答率を示しているのは韓国の4年生の81.1%であるが、英語話者の中級と中国語話者の中級が両方とも80.0%示し、三つの学習者のグループがほぼ同じ正答率を示している。また英語話者の初級(65.0%)と中級(80.0%)への上昇率と、韓国語話者の初級(65.0%)と中級(81.1%)への上昇率はあまり変わらず、中国語話者はわずかに5.0パーセンテージ(75.0→80.0)の上昇率を見せ、三つのグループのうちもっとも低い上昇率を示している。つまり中国語話者の場合、他の学習者より初級の時の正答率が高く、初級段階ですでに補助動詞の授受表現の習得が進んでいたということが言える

3.2 母語別の使用状況と誤用分布

次に母語別の使用状況とそれぞれの「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」の平均正答率の表を見ながら、それぞれの誤用の実態について考えてみたい。

3.2.1 英語話者

(表2) 英語話者 -初級- (8名)

例文の番号	正用(%)	誤用(%)		
		てくれる	てもらう	無記入
～テアゲル	てあげる	てくれる	てもらう	無記入
1	50.0	37.5	12.5	0.0
6	62.5	25.0	12.5	0.0
～テクレル	てくれる	てあげる	てもらう	無記入
3	100	0.0	0.0	0.0
7	75.0	12.5	12.5	0.0
8	62.5	37.5	0.0	0.0
～テモラウ	てもらう	てあげる	てくれる	無記入
2	50.0	0.0	50.0	0.0
4	50.0	25.0	25.0	0.0
5	75.0	0.0	25.0	0.0
9	50.0	12.5	37.5	0.0
10	75.0	12.5	12.5	0.0

(表3) 英語話者 -中級- (7名)

例文の番号	正用(%)	誤用(%)		
		てくれる	てもらう	無記入
～テアゲル	てあげる	てくれる	てもらう	無記入
1	71.4	0.0	28.6	0.0
6	71.4	0.0	28.6	0.0
～テクレル	てくれる	てあげる	てもらう	無記入
3	71.4	14.3	14.3	0.0
7	71.4	0.0	28.6	0.0
8	85.7	14.3	0.0	0.0
～テモラウ	てもらう	てあげる	てくれる	無記入
2	100	0.0	0.0	0.0
4	85.7	0.0	14.3	0.0
5	100	0.0	0.0	0.0
9	57.1	14.3	28.6	0.0
10	85.7	0.0	0.0	14.3

(表4) 英語話者 -初級- (8名)

文型	正用(%)	誤用(%)		
		てくれる	てもらう	無記入
～てあげる	てあげる	てくれる	てもらう	無記入
	56.3	31.3	12.5	0.0
～てくれる	てくれる	てあげる	てもらう	無記入
	79.2	16.7	4.2	0.0
～てもらう	てもらう	てあげる	てくれる	無記入
	60.0	10.0	30.0	0.0

(表5) 英語話者 -中級- (7名)

文型	正用(%)	誤用(%)		
		てくれる	てもらう	無記入
～てあげる	てあげる	てくれる	てもらう	無記入
	71.4	0.0	28.6	0.0
～てくれる	てくれる	てあげる	てもらう	無記入
	76.2	9.5	14.3	0.0
～てもらう	てもらう	てあげる	てくれる	無記入
	85.7	2.9	8.6	2.9

英語話者の場合、「～てもらう」の例文が高い上昇率を見せて、2番の例文

は50.0%から100%に、4番の例文は50.0%から85.7%に上がっている。全体の正答率を見ると「～てくれる」(77.8%)より「～てあげる」(63.9%)の正答率が落ちている。しかしながら、上昇率から考えると「～てあげる」のほうは56.3%から71.4%と上がっているが、「～てくれる」の方はわずかであるが、落ちていることがわかる。言い換えれば上のレベルになるにつれ、「～てもらう」と「～てあげる」は徐々に身についていくが、「～てくれる」はすぐに身につかないということであろう。そこで考えられるのは話者の視点が文の主語と一致する「～てもらう」と「～てあげる」は視点が主語と一致しない「～てくれる」の構文より早く習得されるということである。

ここで「あげる」「くれる」「もらう」に対応する英語について考えてみる。「あげる」「くれる」「もらう」に対応する英語として"give" "receive"が⁽²⁾一般的である。日本語では受取る人の名詞が話し手の「私」であるか否かによって「あげる」か「くれる」になるが、英語ではそのような区別をしない。

- 1) He gave me a book. → 彼は私に本をくれた。
- 2) He gave her a book. → 彼は彼女に本をあげた。
- 3) I gave him a book. → 私は彼に本をあげた。

「もらう」は“received”に対応することになるが、次のような違いがある。

- 4) He received 5,000yen from me.

→?彼は私に5,000円もらった。

- 5) He received 5,000yen from her.

→彼は彼女に5,000円もらった。

- 6) I received 5,000yen from him.

→私は彼に5,000円もらった。

「もらう」では与える人の名詞が原則として話し手の「私」ではあり得ないが、receiveではそのような制限はない。また「もらう」は主語の受取る人の側の意志が積極的に主張されるのに、receive はそのようなことはない。

7)?I will receive 5,000yen from John.

→ジョンに5,000円もらおう。

8)?I tried to receive 5,000yen from John.

→私はジョンに5,000円もらおうとした。

この点で「もらう」は英語の“get”に近く、“receive”は日本語の「受取る」に近いといえる。

今回の英語話者の初級の場合、授受行為の方向付けが完全に習得できなかったせいか、「～てあげる」とすべきところを「～てくれる」(31.3%)とし、「～てくれる」とすべきところを「～てあげる」(16.7%)とした例が目立つ。

1. ⁽³⁾山田さんはトムさんにコピーを手伝って(くれた)。

→あげ

8. 佐藤さんは私の弟に傘を貸して(あげた)。

→くれ

ところが中級の場合、「～てあげる」とすべきところを「～てもらう」(28.6%)とし、「～てくれる」とすべきところを「～てもらう」(14.3%)とした例が目立つ。

6. 木村さんはスミスさんに京都を案内して(もらった)。

→あげ

7. ワンさんは私に切手を見せて(もらった)。

→くれ

これは本動詞の調査とは対照的な結果である。本動詞の場合は中級のレベルで「くれる」とすべきところを「もらう」とした誤用が一つも見あたらなかったのである。「あげる」「くれる」「もらう」の調査⁽⁴⁾では主語と視点が一致する「もらう」の方が“give”に相当する「あげる」「くれる」より習得しやすいことが言えたが、補助動詞では「～てもらう」の構文の特異性のため、外国人学習者にとっては視点の位置づけと構文の習得が本動詞より複雑なも

のになっているということであろう。

3.2.2 中国語話者

(表6) 中国語話者 -初級- (10名)

例文の番号	正用(%)	誤用(%)		
		てくれる	てもらう	無記入
～テアゲル	てあげる			
1	60.0	30.0	10.0	0.0
6	90.0	0.0	10.0	0.0
～テクレル	てくれる	てあげる	てもらう	無記入
3	80.0	10.0	10.0	0.0
7	80.0	20.0	0.0	0.0
8	60.0	20.0	20.0	0.0
～テモラウ	てもらう	てあげる	てくれる	無記入
2	80.0	20.0	0.0	0.0
4	70.0	10.0	20.0	0.0
5	80.0	20.0	0.0	0.0
9	80.0	10.0	10.0	0.0
10	70.0	30.0	0.0	0.0

(表7) 中国語話者 -中級- (8名)

例文の番号	正用(%)	誤用(%)		
		てくれる	てもらう	無記入
～テアゲル	てあげる			
1	62.5	25.0	12.5	0.0
6	87.5	12.5	0.0	0.0
～テクレル	てくれる	てあげる	てもらう	無記入
3	75.0	25.0	0.0	0.0
7	75.0	25.0	0.0	0.0
8	50.0	25.0	25.0	0.0
～テモラウ	てもらう	てあげる	てくれる	無記入
2	87.5	0.0	12.5	0.0
4	100	0.0	0.0	0.0
5	100	0.0	0.0	0.0
9	75.0	12.5	12.5	0.0
10	87.5	0.0	12.5	0.0

(表8) 中国語話者 -初級- (10名)

文型	正用(%)		誤用(%)	
	てあげる	てくれる	てもらう	無記入
～てあげる	75.0	15.0	10.0	0.0
	てあげる	てくれる	てもらう	無記入
～てくれる	73.3	16.7	10.0	0.0
	てもらう	てあげる	てくれる	無記入
～てもらう	76.0	18.0	6.0	0.0

(表9) 中国語話者 -中級- (8名)

文型	正用(%)		誤用(%)	
	てあげる	てくれる	てもらう	無記入
～てあげる	75.0	18.8	6.3	0.0
	てくれる	てあげる	てもらう	無記入
～てくれる	66.7	8.3	25.0	0.0
	てもらう	てあげる	てくれる	無記入
～てもらう	90.0	2.5	7.5	0.0

ここでは主に中国語を母語とする中国語話者の使用状況と誤用の分布を見つめる。中国語の授受動詞について奥津(1983)は次のように述べている。『与え手主語・受け手主語が対立するだけの二語体系であって、日本語と比べてきわめて単純である。更には、与え動詞としては“給”という一般的な動詞があるが、受け動詞の方には、代表的なひとつの動詞をいうものがない。“要・收・受・拿・領・收受・收到・接受・接到・得到・拿到・領受・領取・清領”などたくさんあって、それぞれ用法が微妙にちがうようである』

つまり“給”という動詞が日本語の「ヤル・アゲル・サシアゲル・クレル・クダサル」に対応するが、単なる与え動詞であって敬語・非敬語、身内へよそのへ、の区別なく使えると指摘している。

また“清”を中心として“讓・要・叫・派・動員・托・找”など(謙語式動詞)が一定の条件のもとで「～てもらう」と対応するが、いずれも使役文であり、主語が身内であれば対応すると言っている。基本的には「～てもらう」の意味

に対応する中国語の表現はないと指摘し、日本語のようにある人の行為を利益・恩恵とみなして表現する習慣がなく、中国語ではそれを客観的、中立的に表現するのが一般的だと報告している。

今回調査に応じた中国語話者は全員トロント大学の学生であるが、小さい時カナダの方に移住して来た学生やまたは中国語を母語とする両親の下で育った学生たちである。その学生たちの *primary language* は主にマンダリン、広東語、北京語である。今回の調査では、初級学習者の平均正答率が英語話者、韓国語話者の初級学習者より高い。また他の母語を持つ学習者と違う傾向を見せて、「～てくれる」の習得が低く、それに上のレベルになってもその正答率は上がっていない。

誤用の実態を見ると、英語話者と同じく初級の時は「～てあげる」と「～てくれる」の混同（「てくれる」(誤)→「てあげる」(正) (15.0%)、「てあげる」(誤)→「～てくれる」(正) (16.7%)）が多い。

7. ワンさんは私に切手を見せて(あげた)。

→くれ

ところが英語話者の中級では「てあげる」とすべきところに「～てもらう」としたのが多かったが、中国語話者の中級では「てあげる」とすべきところにも初級と同じく、「てくれる」(18.8%)とした例が多かった。「～てくれる」とすべきところは英語話者と同じように「～てもらう」(25.0%)とした例が多い。

8. 佐藤さんは私の弟に傘を貸して(もらった)。

→くれ

3.2.3 韓国語話者

(表10) 韓国語話者 -3年生- (44名)

例文の番号	正用(%)	誤用(%)		
		てくれる	てもらう	無記入
～テアゲル	てあげる			
1	61.4	27.3	11.4	0.0
6	50.0	13.6	34.1	2.3
～テクレル	てくれる	てあげる	てもらう	無記入
3	65.9	22.7	11.3	0.0
7	61.4	29.6	68.0	2.3
8	52.3	27.3	18.9	2.3
～テモラウ	てもらう	てあげる	てくれる	無記入
2	97.7	2.2	0.0	0.0
4	70.5	15.9	13.6	0.0
5	77.3	13.6	9.1	0.0
9	54.6	25.0	18.9	2.3
10	59.1	22.7	15.9	2.3

(表11) 韓国語話者 -4年生- (27名)

例文の番号	正用(%)	誤用(%)		
		てくれる	てもらう	無記入
～テアゲル	てあげる			
1	63.0	25.9	11.1	0.0
6	63.0	33.3	0.0	3.7
～テクレル	てくれる	てあげる	てもらう	無記入
3	96.3	7.4	0.0	0.0
7	85.2	7.4	3.7	3.7
8	74.1	11.1	7.4	7.4
～テモラウ	てもらう	てあげる	てくれる	無記入
2	96.3	3.7	0.0	0.0
4	81.5	4.1	7.4	0.0
5	92.6	0.0	3.7	3.7
9	85.2	7.4	3.7	3.7
10	81.5	3.7	3.7	11.1

(表12) 韓国語話者 -3年生- (44名)

文型	正用(%)		誤用(%)	
～てあげる	てあげる	てくれる	てもらう	無記入
	55.7	30.7	12.5	1.2
～てくれる	てくれる	てあげる	てもらう	無記入
	60.0	26.5	12.3	1.5
～てもらう	てもらう	てあげる	てくれる	無記入
	71.9	15.9	11.5	0.9

(表13) 韓国語話者 -4年生- (27名)

文型	正用(%)		誤用(%)	
～てあげる	てあげる	てくれる	てもらう	無記入
	63.0	20.5	22.8	1.9
～てくれる	てくれる	てあげる	てもらう	無記入
	84.0	8.6	3.7	3.7
～てもらう	てもらう	てあげる	てくれる	無記入
	87.4	5.2	3.7	3.7

韓国語には人称の視点の制約がなく、「あげる」「くれる」の両方の意味を持っている「주다」という語がある。授受動詞が「て」を伴い「～てあげる」「～てくれる」になると「～해 주다」になり、「～てもらう」に相当する表現はない。つまり韓国語には利益を受ける人を主語としながら、仕手と受け手の行為を一度に言える「～てもらう」にあたる表現はない。「～해 주다」には利益・恩恵の意味があり、視点表現もふくまれているが、そのなかでも「～てあげる」にあたる「～해 주다」は日本語の用法と多少ずれている。そのため、韓国語話者は日本語の補助動詞を韓国語の用法に合せて使いがちなので、誤用も多く現れる。今回の調査でも「～てあげる」の誤用がもっとも多い。(3年生の誤用率44.3%、4年生の誤用率37%)

日本語の「～てもらう」が韓国語のどのような表現に対応しているのかを調べてみたが⁽⁶⁾、一番多い表現は「받다」や「주다」などハングルだけを用いたものである。「받다」は日本語の「もらう」よりは意味が広いので、「～てもらう」の構文を変えずに「名詞+받다」の形で、「～てもらう」の意味

を伝えたり、受身の表現も伝えたりしている。「～てもらう」を使うためには人間関係、それに構文上、主語や補語として表われる人(行為の主体となるもの、その対象となる者)を重ねて考えなければならないので韓国人には紛らわしい問題であるが、今回の調査では「～てもらう」がもっとも高い正答率を見せている。これはすでに指摘したように「～てもらう」の構文が学習しにくいので、意識的に学習を進め、その結果「～てもらう」の構文が「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」の構文のうち、もっとも良く習得できた結果ではないかと思われる。

本動詞の調査では「くれる」を「もらう」とした誤用は初級の段階でしか現れなかったが、補助動詞の場合には4年生の場合にも「～てくれる」を「～てもらう」とした例が目立つ。

7. ワンさんは私に切手を見せて(もらった)。

→くれ

8. 佐藤さんは私の弟に傘を貸して(もらった)。

→くれ

このような傾向は補助動詞の視点表現の理解の不足と構文が完全に習得されていないことで、上級のレベルになってもなくなる誤用の一つだと言えるだろう。

4. おわりに

以上、英語話者、中国語話者、韓国語話者の補助動詞の使用状況のみで、その習得について考えてみたが、ここではその結果を簡単にまとめる。

- 1) 学習者の日本語能力レベル、母語によって誤用の型が異なるが、英語話者と韓国語話者には「～てあげる」と「～てくれる」の混同が多く、上のクラスになってもその誤用はなくなる。
- 2) 母語別に見ると、英語話者と韓国語話者は「～てあげる」の正答率が低いが、中国語話者は「～てくれる」の正答率が低い。

- 3) 英語話者と韓国語話者の「～てあげる」の正答率はレベルが上がると高くなったが、中国語話者は「～てあげる」の正答率は変わらない。また「～てくれる」の正答率は英語話者の場合 若干落ちているが、中国語話者の場合はかなり落ちている。本動詞の時、中国語話者の「～てくれる」の上昇率が高かったこととは異なる結果であるが、ここから補助動詞の習得の難しさがうかがわれる。
- 4) 「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」のうち、「～てもらう」の正答率ももっとも高い。「～てもらう」の構文は他の言語には存在しないので、外国人学習者には習得しにくいものと言われているが、今回の調査で三つのうち、もっとも高い正答率を見せていることはとても興味深いことである。
- 5) 韓国語話者の場合、「～てあげる」の正答率が一番低く、上級になっても三つの項目のうちもっとも低いが、「～てくれる」の上昇率は三つのグループのうちもっとも高い。また「～てくれる」とすべきところを「～てもらう」とした誤用は、初級と中級、両方とも現れる、これは本動詞の時とは違う傾向を見せている。

注

- (1) 本論文は『ことば』25号(2004年発行)の「「～てあげる」「～てくれる」「～てもらう」の習得について—英語圏話者と韓国語話者を比較して—(1)」の続きで、(1)ではレベル別、問題別に考察し、今回は母語別の使用状況と誤用分布を考察する。
- (2) 大江三朗(1975)『日英語の比較研究 主観性をめぐって』南雲堂
- (3) アンケートの例文の番号
- (4) 韓先熙(2003.12)「「あげる」「くれる」「もらう」の使用状況の分析—英語話者と中国語話者、韓国語話者を比較して—」『日本学報』第57号 韓国日本学会
- (5) 韓先熙(1998)『「てもらう」に関する考察—韓国語表現を中心に—』祥明大学校 語文学研究7号

参考文献

- 豊田豊子(1974)「補助動詞『やる・くれる・もらう』について」『日本語学校論集』1, 東京
外国語大学
- 大江三朗(1975)『日英語の比較研究 主観性をめぐって』南雲堂
- 久野 暉(1978)『談話の文法』, 大修館
- 堀口純子(1979)「年少児の受給表現」『ことばの発達』F.C.パン, 堀素子(編) 文化評論出版
- 森田良行(1980)『基礎日本語1・2』, 角川書店
- (1981)『日本語の発想』, 冬樹社
- (2002)『日本語文法の発想』ひつじ書房
- 奥津敬一郎(1983)「授受表現の対照研究-日・韓・中・英の比較-」日本語学 1983年 4月号
- 水谷信子(1985)『日英比較 話しことばの文法文法』くろしお出版
- 岡田久美(1997)「授受動詞の使用状況の分析 -視点表現における問題点の考察-」平成
9年度日本語教育学会春季大会予稿集日本語教育学会
- 田中眞理(1997)「日本語学習者の視点・ヴォイスの習得-「受益文」と「視点の統一」を中
心に」
- Pro-ceedings of the 8th Conference on Second Language Research in Japan, International
University of Japan.
- 韓 先熙(1998)「てもらう」に関する考察-韓国語表現を中心に-祥明大学校 語文学研究
7号
- 坂本 正(2000)「日本語の授受動詞の習得-母語と第二言語を比較して-」日本語文化学
報 9号, 日本文化学会

(はん そんひー)